

# 第3回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

## 議事要旨

日 時：平成28年3月3日（木）10：00～12：00

場 所：安保ホール 303

### 1. 開会

### 2. 開会あいさつ

(中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長)

### 3. 委員長挨拶

### 4. 議事

#### (1) 事業の進捗状況、各部会の検討状況、試験運用方法、事業効果について

事務局より事業の進捗状況、各部会の検討状況、試験運用方法、事業効果について説明があり、質疑がなされた。委員からの主な意見は以下の通り。

- ・異常洪水発生時を含め、バイパスでのゲート操作が増えることでダムのゲート運用に支障が生じないように準備しておくこと。
- ・洪水調節の情報については、本委員会においても適宜報告すること。
- ・ダム下流は、大規模洪水後に河床材料が変化する可能性があるため、流量と土砂量の時間的な変化（ $Q-Q_s$  関係）について、今後整理すること。

#### (2) 試験運用中のモニタリング計画書（案）について

事務局より試験運用中のモニタリング計画書（案）について説明があり、質疑がなされ、試験運用手法、モニタリング手法等に以下の諸点を反映することで、事務局提示案が了承された。

委員からの主な意見は以下の通り。

- ・バケツ採水の際は、採水する場所の水位や横断的な位置等を記録しておくこと。
- ・モニタリング調査はルーティンとして行う調査、研究開発としての調査等を切り分けて整理すること。
- ・出水時における環境の調査項目について、再検討すること。
- ・バイパストンネル吐口での採水資料についても、他の地点における採水資料と同様の分析をすること。
- ・採水調査の際には、将来の調査の省力化（SS観測を濁度観測に切り替える等）を考慮して、SSの分析、粒度分布の分析に加えて、濁度の測定を行うこと。
- ・プレートマイクロフォン計測には衝撃力が反映されている可能性もあるため、摩耗の評価等に対する活用方法についても今後検討すること。
- ・水理量（水位・流量）の調査地点も可能であれば増やすこと。
- ・H28年度はこれらを踏まえてモニタリングを実施し、実施中に見直していくこと。

### 5. 閉会